

○5番 亀田ふみ君

今元中学校3年2組、亀田ふみです。今回、私は、ひとり暮らしや高齢者の方が粗大ごみを個別回収できる提案と質問をいたします。

現在、家電製品や家具などもネットショッピングやテレフォンショッピングを利用して、購入する人が増えてきていますが、その場合、古い物を引き取ってもらえないことが多く、自分自身で粗大ごみとして排出するようになります。しかし、粗大ごみの収集場所は、普段使っている可燃物の収集場所とは違い、数が少なく遠い場所になります。

大きな物や重い物を運ぶのが難しく、困っている高齢者が多くいると思います。そこで、電話をしたら回収に来てくれるような取り組みがあればいいと思います。

まず、はじめに行橋市が取り組んでいることを教えてください。

○副議長 藤田美風君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 田中純君

亀田議員の御質問にお答えをいたします。

粗大ごみの収集、高齢者に対する粗大ごみの収集の件についてかと、そのつもりでお話をさせていただきます。

まず、今の行橋市のごみ一般の収集につきましては、他市とはほとんど変わりなく普通どおりにやっているのが現状です。ただし、行橋市が他市に先駆けてと言ってもいいと思いますけれども、令和1年末から、いわゆるおもいやり収集というものを始めております。これはとりあえず仲津校区で実験的に1年間ほどやったわけでありまして、その目的は、議員は、不燃ごみということに限って、限定されて御質問をされましたけれども、一般ごみであっても、やはり高齢の方、高齢独身者の方、あるいは体にハンディキャップがある方、そういった方は、一般ごみであってもなかなか出すのがしんどい、つらいというような現状があることを我々は認識をした上で、仲津校区を試験的に、ごみを出す高齢者、あるいはハンディキャップがおありの方の家の前まで行って、ごみを受け取りに行くというような試みを始めました。

非常に好評でして、併せて私どもごみ収集の職員は、そのお年寄りないしはハンデをお持ちの方の安否確認まで同時にごみを取りに行った時点でやる。もしごみが全く出ていなかったり、そういった心配がなかった場合は、お声掛けをして安否確認をするという制度を令和1年の暮れから始めたわけでありまして。

これは、幸いなことに大変評判がよくて、仲津校区の中でもさらにやってくれというお話があったり、他校区からは、早くうちでもやってくれというような話があったり、というようなことがその後続いて、昨年11月より一応行橋中の全校区に希望者を募つ

て、今は条件を整えば全校区の皆さんに、そういったおもいやり収集として玄関口までごみを取りに行き、なおかつお年寄り等々の安否確認までやるという制度ができて、仲津校区以外にも少しずつ広がっているというのが現状であります。

そこで、議員御質問の粗大ごみの件について申し上げますと、粗大ごみは要するに集積所に出すのは、今申し上げました高齢者の方やハンディキャップをお持ちの方にとっては、より難しい出し方ということになってしまうわけですが、また、ごみ側の事情としても、ああいった物は、燃える物がくっ付いていたり、金属がくっ付いていたり、様々な物が付いていたり、あるいは電化製品に近いようなものだったりというようなことがあるものですから、それをそのままごみ収集車が持って行くというわけには、残念ながらいかない。だからいま環境課のほうで考えていますのは、軽トラックで入れるような場所のお宅であれば、軽トラックをそのまま家の玄関口までくっ付けようかと、そしてそこで粗大ごみを受け取って粗大ごみの集積所まで持って行こうかと、そういうようなことを今議論している最中です。

ですから可能な限り、議員御指摘のように、今後は粗大ごみも一定程度の条件、つまり高齢者であったり、あるいはハンデをお持ちの方だったり、そういった方に対しては、このサービスを広げていこうという思いで、今計画しているところであります。

それから先ほど申し上げました、おもいやり収集ということで、仲津校区は、もう随分知れ渡っていますので、希望される方もかなり増えてきていますけれども、他の地区の方は、まだまだこういう制度があるということを御存知ない方もたくさんおられますので、まず粗大ごみ以外の普通の一般ごみを自宅の門口まで行って収集する、これをもう少し行橋全域に広げていきたいというぐあいに思っております。粗大ごみを決して無視するというわけではありませんが、まずそこを行橋全土にもう少し広げていこうと、段階を踏んで次は粗大ごみの段階にいこうと、そういうぐあいに考えています。よろしく御理解ください。

○副議長 藤田美風君

亀田議員。

○5番 亀田ふみ君

ありがとうございます。私は、今回このような取り組みが行橋市で行われていることを、この質問をするまで知りませんでした。本当に困っている人の中にも、行橋市が現在取り組んでいる様々な助成事業を分かりやすい方法で多くの人に知ってほしいと思います。

最後に行橋市は、今後この取り組みをどのように拡充し、どのような方法で広報していきますか。

○副議長 藤田美風君

市長。

○市長 田中純君

お答えいたします。先ほどの繰り返しになりますけども、まずやはり一般ごみのふれあい収集というかたちでの行橋全体に市民の皆さんに知っていただくために、今伝える方法とすれば、まず市報があったり、あるいはホームページがあったり、あるいは新聞に記事として出していただくとか、そういう方法がありますので、できるだけそういう方法を数多く機会あるごとに使って、市民の皆様にも周知徹底を図って、そういうニーズのある方には、必ずそういったかたちでのふれあい収集というかたちでの玄関口まで取りに行くというような、ごみの収集システムを完成させたいというぐあいに思っています。以上です。

○副議長 藤田美風君

亀田議員。

○5番 亀田ふみ君

ありがとうございました。私は、行橋市で暮らす高齢者や障がいを持つ方で、ごみを出せずに困っている人が一人でも多くこの制度を知っていただき、より多くの方が利用できるような新たな取り組みができることを願っています。

様々な問題はあると思いますが、ぜひ実現できるように検討していただきたいと思えます。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。